

日本旧石器学会

ニュースレター 第39号
NEWS LETTER No. 39

JAPANESE PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION



日本旧石器学会第16回大会の開催（報告）

2018年度日本旧石器学会第16回大会が、2018年6月23日・24日、東京都新宿区の早稲田大学戸山キャンパス38号館2階38AV教室（総会，一般研究発表，シンポジウム），32号館224教室（ポスターセッション）を会場に，早稲田大学考古学研究室との共催で開催された。

総会

6月23日13時30分から日本旧石器学会総会が行われた。冒頭，佐藤宏之会長から挨拶があり，その後事務局長からの推薦により鹿又喜隆会員が議長に選出された。

議事は，各委員会より2017年度活動報告と2018年度活動計画の報告が行われた。質問・要望事項について審議した後，採決により承認を得た。各委員会の報告・審議事項については本号に掲載しているとおりである。

続いて2017年度日本旧石器学会賞の受賞者の発表と授賞式が行われた。学会賞は御堂島正会員，奨励賞は芝康次郎会員と橋詰潤会員にそれぞれ贈られた。授賞式では佐藤会長から各受賞者に賞状等の贈呈が行われた。

一般研究発表

総会に続いて一般研究発表が行われた。発表者は，西秋良宏，夏木大吾，池谷信之・中川真人，加藤真二，金井拓人・保坂康夫，青木要祐の各氏で合計6本の発表である。

ポスターセッション

ポスターセッションは，6月23日・24日の両日，32号館224教室において行われ，コアタイムが24日12時30分～13時30分の間に設けられた。合計9本の発表が行われ，発表者は，野口淳・横山真・千葉史・佐藤祐輔・神田和彦・渡邊玲・小菅将夫，横山真・野口淳・千葉史・佐藤祐輔・神田和彦・渡邊玲・小菅将夫，光石鳴巳・白石純・森先一貴，堤隆，及川穰・今野晃市・松山克胤・千葉史・横山真・品川欣也・藤川翔・栗野翔太，白石浩之・加藤悠雅・社本有弥，酒卷孝光，沖野実，橋詰潤の各氏である。酒卷氏の発表に併せて星野遺跡地層たんけん館地点採集石器の展示も行われた。

シンポジウム

シンポジウムは『日本列島への人類拡散と後期旧石器時代の成立を考える』と題して6月24日に開催された。まず研究企画委員会の中沢祐一委員より趣旨説明がされ，続いて8本の基調報告が行われた。古気候，古人類，古生物など考古学を取り巻く諸分野の最新の研究状況の報告が，入野智久氏（「更新世の東アジア地域の古気候変動と日本列島」），松村博文氏（「アジアにおけるホモ・サピエンス拡散の二重構造モデル」），太田博樹氏（「遺伝人類学からみた東アジア・日本列島への人類の拡散」），河村愛氏（「東アジア動物相の日本列島への拡散」）からなされ，後期旧石器時代成立の背景にある諸現象にかかわる高精度化したデータが提示された。そして，上峯篤史氏から日本列島における4万年前より古い石器群の存在とその評価を巡る研究の現状と課題について，日本列島各地の後期旧石器時代前半期の状況について赤井文人氏，神田和彦氏，尾田識好氏，杉原敏之氏から報告が行われた。

パネルディスカッションでは議論に先立って，周辺地域の状況に関する簡潔な報告が，中国については佐川正敏氏から，韓国については中川和哉氏から行われた。続いて行われた議論は，取り上げることが可能な論点の多様さに比して短時間ではあったが，考古学的な現象についてのみではなく，後期旧石器時代前半期に対応する，古環境条件や哺乳動物の分布，当該期の古人類集団などの研究の現状を確



シンポジウム・パネルディスカッション風景

認しつつ、考古学と関連諸科学双方にとって有益な共通の研究テーマを設定しうるのかについても意見交換がなされた。最後に、研究企画委員会の海部陽介委員のコメントと、佐藤宏之会長による総評によって、日本旧石器学会でも過去数度にわたって取り上げられてきた本テーマのこれまでの蓄積と、最新の世界的な研究動向の上に立ち今後も議論を続けることの必要性が示され、シンポジウムは盛会のうちに終了した。

(ニュースレター委員 橋詰潤記)

2017年度委員会報告

2018年6月23日(土)に日本旧石器学会総会が開催されました。2017年度の活動について各委員会から報告が行われ、審議の後に承認されました。内容につきましては以下のとおりです。

総務委員会

(1) 会員情報の管理

・新入会員の入会・住所変更等に関する事務：2017年度の新入会員は4名、退会者は5名であり、2018年4月1日現在の会員数は、会費長期滞納により権利を停止している会員を除き231名である。

(2) 2017年度総会に関する資料の作成・会場設営・連絡調整

・総会：2017年7月1日(土) 慶應義塾大学三田キャンパス 東館8階ホール。

(3) 役員会に関する資料の作成・会場設営・連絡調整

・役員会：2017年5月27日(土) 大正大学 3号館342番教室。

(4) 会務に関する連絡・調整、各委員会間の連絡・調整

(5) 会誌(「旧石器研究」第13号)、ニュースレター(第36・37・38号)、各種学会連絡文書発送

・会誌発送：2017年9月末。
・ニュースレター発送：2017年8月第36号、2017年12月第37号、2018年5月第38号。

それ以外に適宜要望に応じて発送を行なった。

(6) 日本考古学協会総会図書交換会等におけるシンポジウム予稿集及び会誌「旧石器研究」の頒布

・図書交換会：2017年5月28日(日) 大正大学。
(7) 日本旧石器学会賞に関すること

・2017年度総会において2016年度の学会賞・奨励賞の授賞式を行った。
・2017年度の学会賞、奨励賞選考に係る事務を行った。

(8) 役員選挙に関すること

- ・選挙告示：ニュースレター37号(2017年12月)
- ・立候補の受付：2018年2月5日まで
- ・選挙公報、投票用紙の送付：3月末(再選挙の為)
- ・投票：4月1日～15日
- ・開票：4月22日
- ・結果発表：5月、ニュースレター第38号

(9) メーリングリストに関すること

・2013年12月に運用を開始したメーリングリストの登録管理。現在の登録人数は97名である。会員への連絡の事務作業量の軽減のため、役員間のコミュニケーション、学会活動の活性化のための情報交換の場として運用している。

(10) 共催・資料提供等について

- ・宮崎県「ひなたGIS」にデータベース『日本列島の旧石器時代遺跡』のデータ提供。
- ・村山市教育委員会編『遠い昔の村山市―旧石器から古墳時代』HP「旧石器時代の教科書」の中の写真を提供。
- ・みくに出版 中学入試問題集 HP「日本列島の旧石器時代遺跡」※岩宿遺跡の中の写真を提供。

会計委員会

1. 2017年度の活動実績について

(1) 役員会、総会・研究発表・シンポジウム、日本考古学協会図書交換会時

・会費・学会刊行物頒布代金の徴収(総務委員会と協同)及び当該現金収入の学会口座への預入
・日本旧石器学会賞副賞、各委員会立替金、仮払金の現金支出

(2) 通年

・会員ごとの会費納入状況管理、会費納入・住所変更等の総務委員会への報告。

・刊行物頒布等収入の管理。
・会議・普及講演会・データベースワークショップに出席する役員の交通費補助額の算定・支払。
・学会刊行物(会誌13号、ニュースレター35・36・37号)の印刷製本費・発送費の支払。
・HP管理・メーリングリスト構築運用委託費の支払。

・APA日本大会経費積立金の口座管理(積立金入金・支払等)。

・日本旧石器学会賞関連経費、役員選挙関連経費の支出。

・その他、学会出納口座の管理

2. 2017年度決算について(表1参照)

(1) 一般会計

収入は、予算額を92,000円上回った。主な原因

は、会誌・予稿集の売上増及び会費収入増。

(2016年度延べ188人・年分に対し2017年度延べ236人・年分。会費納入率増に加え、複数年滞納者減。)

支出は、通信運搬費及び次年度シンポジウム開催準備費が予算を上回ったが、他の費目は全て予算の枠内で執行され、総額も予算範囲内で執行された。

通信運搬費の増額原因は、会誌刊行時期が総会後になったことによる送料増、当初予算非計上の役員選挙関係送料等増などである。

次年度シンポジウム開催準備費の増額原因は、打合せ会に例年以上に遠方からの出席者が多かったことによる交通費補助の増などである。

予算比で、実収入額は92,000円の増、実支出額は213,730円の減。195,930円の黒字が発生し、2018年度への繰越金は1,754,890円となった。

(2) 特別会計 (表2参照)

所定の150,000円を積み立て、330,000円を2018年度に繰り越した。

(3) 会計監査

2018年6月9日、会計監査委員から監査を受け、会計が適正に執行されている旨の報告を受けた。

(報告書面は省略)

会誌委員会

1. 2017年度活動の概要

2017年度における会誌委員会の目標は、会誌が充実した内容となるよう責任ある編集体制の確保に努めるものとし、次のような目標・課題を設定した。

(1) 研究企画委員会と協力しながら学術的水準を維持しつつ、意欲的で充実した誌面づくりに努める。そのため、積極的に各地域の会員からの投稿を募り、多様な論文・研究ノート・資料報告の集約を行う。

(2) 編集作業の工程を見直し、2018年の日本考古学協会図書交換会に会誌刊行を間に合わせる。

(3) 旧石器研究に関する最新情報や関連分野の研究事情について、投稿数を増やすべく広く会員に周知してその協力を求める。

(1) については、研究企画委員会等他の委員会との連携をはかり、第15回研究発表・シンポジウムの発表者からの投稿の他、多彩な内容の論考を掲載することができた。(2)の会誌編集については、会誌の頒布を日本考古学協会図書交換会に合わせるすることができた。(3)についても会員の他の委員会の協力も得て、周知に努めることができた。

2. 会誌『旧石器研究』第14号(2018年5月刊

行)の内容ほか

第14号は、総論1, 原著論文6, 研究ノート1, シンポジウム報告1, 会則・規定・会員名簿等からなる。総頁数は約146頁で、本誌の構成は以下のとおりである。

・総論：山田しょう「使用痕研究の現状と旧石器時代における行動研究への応用」

・論文：御堂島正「黒曜岩の被熱痕跡」, 国武貞克・タイマガンベトフ・ジャケン「カザフスタン南部カラタウ山地における旧石器時代遺跡の探索」, 岩瀬 彬「古本州島東半部における後期旧石器時代の石器使用の変異性とその含意」, 長井謙治「朝鮮半島ルートでみた日本列島への人類到達仮説」, 隅田祥光・亀井淳志・川道 寛・及川 穰・稲田陽介・栗野翔太「長崎県壱岐と島根県隠岐島後の黒曜石の化学的特徴の類似性と原産地判別法についての検討」, 高倉 純「長崎県佐世保市福井洞窟出土石器群における剥離方法の同定—2012~2013年発掘資料を対象として—」

・研究ノート：沢田 敦「技術組織・ライフヒストリー・痕跡分析」

・シンポジウム報告：尾田識好「日本旧石器学会第15回研究発表・シンポジウム『使用痕分析を統合した行動研究の展開』」

・会則・規定, 役員名簿, 会員名簿, 投稿規定・執筆要項

ニュースレター委員会 2017年度はニュースレター第36号, 第37号, 第38号の編集・発行を行った。主な内容は以下のとおり。

〈第36号〉2017年8月21日：日本旧石器学会第15回大会の開催(報告), 2016年度委員会報告, 2017年度活動計画, 2017年度日本旧石器学会役員会, 会費の値上げ(会則の一部改訂)について, 2016年度日本旧石器学会賞受賞者, 2017年度学会賞の推薦, 『旧石器研究』の原稿募集, お知らせ

〈第37号〉2017年12月28日：アジア旧石器協会(APA)への期待, 2016年度日本旧石器学会賞受賞者報告, 役員選挙について, 2018年度総会・研究発表・ポスターセッション発表の募集, 2017年度普及講演会案内, 関連学会情報, お知らせ

〈第38号〉2018年5月20日：新しい『日本列島の旧石器時代遺跡』データベース, 日本旧石器学会役員選挙結果のお知らせ, 2018年度日本旧石器学会第16回総会・研究発表・シンポジウムについて, 2017年度普及講演会の報告, 関連学会・出版情報, お知らせ

表1 日本旧石器学会2017年度一般会計決算（単位：円）

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会費収入				
会費収入	1,175,000	1,183,000	8,000	延べ236人・年分【内訳】16年度以前43人,17年度187人,18年度6人（うち3人は5,000円のみ納入）
その他の収入				
会誌頒布代金	230,000	244,800	14,800	最新刊34冊, バックナンバー40冊
シンポジウム予稿集頒布代金	190,000	253,500	63,500	最新刊142冊, バックナンバー51冊
その他収入	10,000	15,700	5,700	懇親会余剰金等
前期繰越収支差額	1,558,960	1,558,960	0	
収入 計	3,163,960	3,255,960	92,000	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会議費・会場設営費	50,000	40,346	-9,654	日本考古学協会図書交換会卓代, データベースワークショップ会場使用料等
旅費交通費	190,000	135,000	-55,000	シンポジウム発表者, 普及講演会講師並びに学会賞選考・データベースワークショップ・普及講演会出席役員旅費補助
通信運搬費	140,000	271,148	131,148	会誌・ニュースレター・役員選挙に係る送料等
消耗品費	20,000	1,682	-18,318	事務用品等
印刷製本費	1,020,000	740,934	-279,066	研究発表・シンポ予稿集, 会誌, ニュースレター(3件)
諸謝金	0	0	0	
委託費	64,800	64,800	0	HP管理・メールリスト構築運用
次回APA日本大会経費積立	150,000	150,000	0	
研究グループ運営経費	0	0	0	
シンポジウム開催準備費	10,000	35,000	25,000	次年度シンポ打合せ会出席者交通費補助
日本旧石器学会賞関連経費	40,000	34,644	-5,356	賞状製作, 副賞
雑費	30,000	27,516	-2,484	郵便振替・銀行振込手数料等
予備費（次年度繰越）	1,449,160	1,754,890	305,730	
支出 計	3,163,960	3,255,960	92,000	

表2 日本旧石器学会2017年度特別会計（APA日本大会開催経費積立）決算（単位：円）

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
積立金収入	150,000	150,000	0	次回APA日本大会経費積立金
その他の収入	0	0	0	
前期繰越収支差額	180,000	180,000	0	
収入 計 (①)	330,000	330,000	0	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
APA日本大会経費	0	0	0	
その他の支出	0	0	0	
支出 計 (②)	0	0	0	
次期繰越金 (①-②)	330,000	330,000	0	

渉外委員会

・APA執行委員会との連絡・調整, 次回2018年第9回APAロシア大会開催情報の収集と会員への周知をおこなった。第9回大会は, 7月30日～8月6日にロシア・アルタイ共和国で開催される。日本からの参加者は9名（発表8本）の予定。

・前回APA執行委員会で検討継続課題となった, APA加盟資格（国・個人）に関する他国際学会の状況調査をおこなった。

・2016APA東京大会の会議後論文集の編集を行った。IUPシンポジウム特集号（Archaeological Research in Asia）, および一般研究発表特集号（Quaternary International）の2本の編集を実施中である。いずれも編集は最終段階で, 2018年度夏期に刊行する計画で作業を進めている。

・2016APA東京大会から2024年日本開催大会への引き継ぎのための引継ぎ書を作成した。

研究企画委員会

(1) 第15回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの開催

- ・日程：2017年7月1日（土）～2日（日）
- ・会場：慶応大学三田キャンパス
- ・シンポジウム「使用痕分析を統合した行動研究の展開」発表5本, 一般研究発表8本, ポスターセッション11本
- ・シンポジウム特集：『旧石器研究』第14号に成果論文を掲載

データベース委員会

データベース委員会活動方針の基本（2016年度より継続）

「日本列島の旧石器時代遺跡」データベースを、

- ・最新の情報に基づき、
- ・より使いやすく、
- ・維持管理の容易なデータベースに！

1. 2017 年度活動報告

(1) 更新・改訂作業

①基本方針：2010年版以降の新規・欠落データの追加・補足、収録情報の確認・位置情報の高精度化、文献書誌情報の外部データとの紐づけ。

②会員への協力のお願ひ・報告：ニュースレター第36号・38号、委員会から各地の会員への打診。

③「旧石器遺跡マッピングパーティー」更新作業ハンズオン・ワークショップ。

・2017年4月22日：島根大学（同大法文学部山陰研究センター・附属図書館・地域未来戦略センター，中・四国旧石器文化談話会，総合地球環境学研究所と共催）

・7月1日：慶應義塾大学三田キャンパス（総会時開催）

・7月8日：東北大学川内キャンパス（東北大学考古学研究室，宮城県考古学会旧石器部会と共催）

・11月12日：首都大学東京

・2018年2月3日：浅間縄文ミュージアム（長野県旧石器文化研究交流会，八ヶ岳旧石器研究グループ，明治大学黒耀石研究センターと共催）

・3月10日：名古屋市南生涯学習センター（東海石器研究会と共催）

・4月14日：神奈川県埋蔵文化財センター（石器文化研究会，神奈川県考古学会と共催）

④更新改訂作業の進捗状況（2018年7月現在）。

・秋田県，宮城県，奈良県についてほぼ完了。ワークショップ開催・参加都県について作業進行中。

2. 更新・改訂版の公開準備

(1) ウェブ版公開の方針

・更新改訂作業が完了次第，都道府県単位で順次公開を予定

・2010年版は継続公開，更新改訂版用のページを新設しデータを提供

・冊子や地図は作成しない。外部サイトとの連携を進める（ひなたGISでの地図表示等）

・利用規約の改訂：外部サイトとの連携をはじめ利用者の利便を図る

入会資格審査委員会 2017年度は以下の入会申し込みがあった。

・和田 好史（ワダ ヨシフミ 2017年3月26日入会申込，4月6日資格審査結果報告）

・濱口 皓（ハマグチ コウ 2017年7月26日入

会申込，8月3日資格審査結果報告）

・青木 要祐（アオキ ヨウスケ 2017年8月7日入会申込，8月8日資格審査結果報告）

・池山 史華（イケヤマ フミカ 2017年12月25日入会申込，2018年1月4日資格審査結果報告）

4氏の資格審査を加藤，阿子島両名で厳正に行い，会長に結果を報告した。

広報委員会 日本旧石器学会や旧石器時代の周知・PR，普及講演会の実施，HPの更新，関連学会情報の提供や魅力あるコンテンツの作成を柱に，以下のとおり活動を行った。

1. 普及講演会を開催し，日本旧石器学会や旧石器時代の周知・PRに努めた。

日時：2018年2月24日（土）13:00～15:40

場所：新潟市歴史博物館みなとびあ

内容：タイトル「旧石器時代の新潟と関東一脊梁山脈の彼方と此方」

講演者：須藤隆司会員「北関東地方の旧石器文化」

佐藤雅一氏「新潟県域周辺の旧石器文化」

鼎談（講演後）「旧石器時代の新潟と関東一旧石器人は脊梁山脈を越えたか」

沢田 敦広報委員（司会）と講演者2名による鼎談。

2. HPでは，旧石器学会，講演・共催事業・関連学会等の情報提供をはじめ，各種コンテンツを追加。

(1) ホームページ更新

・4月29日 2017年度日本旧石器学会 総会・研究発表・シンポジウム（7月1・2日，会場：慶應義塾大学）開催案内の掲載

・6月16日 データベース委員会，慶應義塾大学民族学考古学研究室主催ワークショップ：「あたらしい日本列島の旧石器時代遺跡データベース」（7月1日）開催案内の掲載，ニュースレター35号のHPへの掲載

・7月1日 データベース委員会，東北大学考古学研究室，宮城県考古学会旧石器部会主催ワークショップ：「東北旧石器遺跡マッピング パーティ」（7月8日）開催案内の掲載

・8月2日 大阪府立弥生文化博物館，沖縄県立博物館・美術館主催「平成29年度大阪府立弥生文化博物館 夏期特別展「沖縄の旧石器人と南島文化」（7月1日～9月18日）開催案内の掲載（他21件）

(2) その他HP関連

2018年5月18日 データベース委員会から要請を受け，HP上のデータページ閲覧数とデータ・ダウンロード数を照会した（データベース委員会との連携）。2017年度のHP訪問者数（アクセスデータのvisits数）は1日平均220人程度であった。どの

月も旧石器遺跡データベースへのアクセスが主体を占めた。またHPアクセス上位10ヶ国（アクセスデータのヒット数トップ30を集計）は、日本、ロシア、ヨーロッパ連合、ドイツ、タイ、イタリア、オランダ、ルーマニア、イギリス領インド洋地域、スペインとなっており、海外からのデータベースへのアクセスも多いことがわかった。

3. その他 共催・後援・協力事業等

・共催事業等は特になし

・日本セカンドライフ協会主催講演会「ラスコー洞窟より広がる世界」の講師派遣依頼に及川（広報委員）が対応し、「ラスコー洞窟より広がる世界—西欧と日本列島の比較から旧石器時代の芸術と技術を知る—」と題して講演した（2017年7月14日・於：豊島区生活産業プラザ）。

2018 年度活動計画

2018年6月23日（土）に日本旧石器学会総会が開催されました。2018年度の活動計画案について各委員会から報告が行われ、審議の後に承認されました。内容につきましては以下のとおりです。

総務委員会 例年とおりの経常的な会務に取り組む。その他、以下の項目に取り組む。

（1）日本旧石器学会賞に関すること

・工程：9月にニューズレター第39号で「学会賞推薦」の告知、4月頃学会賞選考委員会を開催し推薦をもとに受賞者候補を決定、5月の日本考古学協会総会時の役員会で決定、6月の日本旧石器学会総会にて授賞式を行う。

学会賞の推薦件数が年々少ないので、会員諸氏には積極的に推薦をお願いする。

（2）研究グループの募集

2018年度においては、研究グループの応募はない。2019年度の研究グループについてはニューズレター等で募集するが、数年間応募がないので会員諸氏に研究活動の活性化のために積極的に応募を呼びかける。

（3）メーリングリストの活用の強化に取り組む

新入会員には入会時に積極的に登録をお願いするほか、未登録の会員の登録を呼びかける。同時に、役員間のコミュニケーション、学会活動の活性化のための情報交換の場として、会員の積極的な活用も呼びかける。

（4）2019年度総会・大会の会場の準備・調整を進める。

第17回総会・大会も東京近郊での開催を予定し

ている。

会計委員会 基本的には、2017年度と同様の事務を行う。一般会計予算については、データベースワークショップの会場使用料・WiFiルーターレンタル料及び普及講演会の会場使用料発生を見込んだ会議費・会場設営費増額、シンポジウム発表者にあわせた通信交通費増額、近年の印刷経費高騰及び編集作業の外注化による印刷製本費増額などの調整を行った予算編成を行った（表3）。前年度繰越金から11,800円を切り崩すこととなるが、執行段階での一層の経費節減に努める。

特別会計については、2017年度総会での議決に基づき所定の150,000円を積み立て、480,000円を2019年度に繰り越す（表4）。

会誌委員会 昨年度と同様、引き続き以下の目標を定める。会誌第15号が充実した内容となるよう責任ある編集体制の確保に努める。（1）研究企画委員会と協力しながら学術的水準を維持しつつ、意欲的で充実した誌面づくりに努める。そのため、積極的に各地域の会員からの投稿を募り、多様な論文・研究ノート・資料報告の集約を行う。（2）編集作業の工程を見直し、2019年の日本考古学協会図書交換会に会誌刊行を間に合わせる。（3）旧石器研究に関する最新情報や関連分野の研究事情について、投稿数を増やすべく広く会員に周知してその協力を求める。また、これまでに投稿実績のない執筆者からの投稿も積極的に呼びかける。

ニューズレター委員会 2018年度はニューズレター第39号、第40号、第41号の編集・発行を行う。刊行時期と主な掲載予定内容は以下のとおり。

〈第39号〉2018年8月刊行予定、日本旧石器学会第16回大会の開催（報告）、2017年度委員会報告、2018年度活動計画、2017年度日本旧石器学会賞受賞者報告、2018年度学会賞の推薦、関連学会情報、お知らせ

〈第40号〉2018年12月：APAロシア大会参加記、2017年度日本旧石器学会賞受賞者報告、2018年度普及講演会、委員会活動報告、関連学会情報、お知らせ

〈第41号〉2019年4月：2019年度日本旧石器学会総会のお知らせ、委員会活動報告、関連学会情報、お知らせ

渉外委員会 2018年度活動予定は以下のとおり。

- ・APA執行委員会との連絡・調整
- ・第8回APA東京大会の会議後論文集の出版
- ・第9回APAロシア大会への参加
- ・第10回APA中国大会の連絡・調整

表3 日本旧石器学会2018年度一般会計予算（単位：円）

収 入				
費 目	2018年度 予算額	2017年度 決算額	2017年度 予算額	摘 要
会費収入				
会費収入	1,398,000	1,183,000	1,175,000	会員233人×6,000円
その他の収入				
会誌頒布代金	240,000	244,800	230,000	
シンポジウム予稿集頒布代金	250,000	253,500	190,000	
その他収入	10,000	15,700	10,000	会誌頁数超過分課金（2016年度未収金）
前期繰越収支差額	1,754,890	1,558,960	1,558,960	
収入 計	3,652,890	3,255,960	3,163,960	
支 出				
費 目	2018年度 予算額	2017年度 決算額	2017年度 予算額	摘 要
会議費・会場設営費	60,000	40,346	50,000	日本考古学協会図書交換会卓代、総会時役員昼食代、会場使用料等
旅費交通費	250,000	135,000	190,000	シンポ発表者、普及講演会講師、役員旅費補助
通信運搬費	190,000	271,148	140,000	会誌・ニュースレター・役員選挙（再投票）に係る送料等
消耗品費	10,000	1,682	20,000	事務用品等
印刷製本費	1,080,000	740,934	1,020,000	研究発表・シンポ予稿集、会誌、ニュースレター（3件）
諸謝金	0	0	0	
委託費	64,800	64,800	64,800	HP管理、メーリングリスト構築運用
次回APA日本大会経費積立	150,000	150,000	150,000	
研究グループ運営経費	0	0	0	
シンポジウム開催準備費	35,000	35,000	10,000	次年度打合せ会議交通費補助
日本旧石器学会賞関連経費	40,000	34,644	40,000	賞状製作、副賞
雑費	30,000	27,516	30,000	郵便振替・銀行振込手数料等
予備費（次期繰越金）	1,743,090	1,754,890	1,449,160	
支出 計	3,652,890	3,255,960	3,163,960	

表4 日本旧石器学会2018年度特別会計（APA日本大会開催経費積立）予算（単位：円）

収 入				
費 目	2018年度 予算額	2017年度 決算額	2017年度 予算額	摘 要
積立金収入	150,000	150,000	150,000	次回APA日本大会経費積立金
その他の収入	0	0	0	
前期繰越収支差額	330,000	180,000	180,000	
収入 計	480,000	330,000	330,000	
支 出				
費 目	2018年度 予算額	2017年度 決算額	2017年度 予算額	摘 要
支出 計	0	0	0	
次期繰越金	480,000	330,000	330,000	

研究企画委員会

(1) 第16回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの開催

- ・日程：2018年6月23日（土）～24日（日）
- ・会場：早稲田大学戸山キャンパス
- ・組織：主催 日本旧石器学会、共催 早稲田大学考古学研究室
- ・シンポジウム「日本列島への人類拡散と後期旧石器時代の成立を考える」発表8本、一般研究発表6本、ポスターセッション9本

(2) 第17回日本旧石器学会の準備

- ・次年度の研究大会シンポジウムの企画を進める
- ・会場の選定（調整中）

・シンポジウムの企画

データベース委員会

1. 改訂更新作業の継続

・基本はウェブ上での協働（共同）作業→できる人が、できる時に！

- ・更新作業ワークショップを継続して開催。
- ・研究上価値のある付加情報の整備とより効果的なDB連携について検討する。引き続き奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」と連携。

2. 更新改訂版の公開

- ・作業完了都道府県から公開を準備。2018年10月以降を予定。
- ・改訂した利用規約の下での公開。

3. 課題

- ・協力者の募集，体制づくり：個人及び地域単位の研究会等の協力を得て着手・進捗した都道府県とほぼ手つかずのところに分かれる。
- ・今後も更新作業ワークショップを継続開催するので会員各位のご協力を賜りたい。

入会資格審査委員会

- ・入会申込者の資格審査を迅速に行う。
- ・現在までに、既に5名の方の資格審査を行っている。会員各位においては、引き続き、積極的に入会希望者の掘り起こしと勧誘を行っていただきたい。

広報委員会 日本旧石器学会や旧石器時代の周知・PR，のために、普及講演会の開催，HPの更新や魅力あるコンテンツの作成を柱に、以下のとおり活動を行う。

1. 普及講演会を開催し，学会や旧石器時代の周知・PRに努める。
 - ・東日本：未定。場所，共催相手等を模索中。
 - ・西日本：比較的会員数の少ない九州での開催を検討したい。
2. HPでは，単に情報提供だけでなく，旧石器時代の理解を促進するための「日本列島の旧石器時代遺跡」などのコンテンツを追加する。地域・時期の偏りを減らす努力。※九州の遺跡の充実
3. HPの既存コンテンツのほか，新たなコンテンツ追加も検討する。
 - ・各種データベース等のリンク作成（事例：国立歴史民俗博物館の放射性炭素年代測定データベース）
4. HPへのアクセスを増やす方策を検討する。
 - ・閲覧・ダウンロード数の確認と分析を引き続き実施する。
 - ・データベース委員会との連携：今後も遺跡データベース改訂に向けて，引き続き総務委員会とも連携して協力する。
5. その他，旧石器時代関連の周知に関する共催・後援・協力事業を実施する。

2017年度日本旧石器学会賞受賞者

2017年度の日本旧石器学会賞選考委員会を2018年5月4日に開催し，学会賞候補者1名，奨励賞候補者2名を選考しました。それを受け，5月26日の役員会においてそれを承認，決定し6月23日の総会において授賞式を行いました。2017年度の受賞者は以下のとおりです。

- ・2017年度学会賞受賞者：御堂島 正（大正大学）
- ・2017年度奨励賞受賞者：芝 康次郎（奈良文化財

研究所)

- ・2017年度奨励賞受賞者：橋詰 潤（新潟県立歴史博物館）

なお，「選考理由」および「受賞者の言葉」は，ニュースレター第40号にて報告します。

2018年度学会賞の推薦について

「日本旧石器学会賞規定」に則り，2018年度の学会賞候補の推薦を募ります。旧石器研究の発展に貢献し優れた業績をあげた会員を推薦してください。

1. 推薦内容：学会賞受賞候補
2. 推薦期間：2018年10月15日（月）～2019年2月15日（金）（必着）
3. 推薦者の資格：日本旧石器学会会員
4. 推薦方法
 - ・学会賞候補者の氏名，推薦理由，推薦者の氏名・連絡先をご記入の上，郵送もしくは電子メールにより下記の事務局宛に送付してください。
5. 注意事項
 - ・推薦は自薦・他薦を問いませんが，お一人につき一名を限度とします。
 - ・学会賞受賞候補は，日本旧石器学会会員に限りません。推薦にあたって，学会賞候補ご本人の承諾を得る必要はありません。
 - ・推薦の書式は自由です。
 - ・推薦理由は概ね100字から300字にまとめてください。
6. 応募先・紹介先
日本旧石器学会事務局（担当：佐野勝宏・岩瀬彬）〒192-0364 東京都八王子市南大沢1-1 首都大学東京 都市教養学部人文・社会系歴史・考古学分野 (jimu@palaeolithic.jp)

2018年度日本旧石器学会役員会

（2018年4月1日～2019年3月31日）

- 会 長：阿子島香
副会長：諏訪間順
総務委員会：*佐野勝宏 岩瀬 彬 渡辺丈彦 鈴木美保
会計委員会：*沖 憲明 小野章太郎
会誌委員会：*松本 茂 海部陽介 長崎潤一 下岡順直 小原俊行 三好元樹
ニュースレター委員会：*橋詰 潤 馬籠亮道 山崎真治

渉外委員会：*加藤真二 門脇誠二 出穂雅実
研究企画委員会：*中沢祐一 海部陽介 三好元樹
尾田識好 門脇誠二
データベース委員会：*光石鳴巳 馬籠亮道
小原俊行 小野章太郎 野口 淳 氏家敏之
国武貞克
入会審査委員会：*加藤真二 諏訪問順
広報委員会：*立木宏明 尾田識好 沢田 敦
及川 穂
会計監査委員：藤野次史 小嶋善邦
日本旧石器学会賞選考委員：*鈴木美保 阿子島香
諏訪問順 中沢祐一 佐野勝宏
*は委員長 __は委嘱委員
アジア旧石器協会：佐藤宏之（副会長）
出穂雅実 佐野勝宏（執行委員）
（本年7月末～開催のAPAまで、その後新体制と
なります。詳細はニュースレター第40号で報
告予定。）

2018年度第1回普及講演会

2018年度第1回の普及講演会を以下のとおり秋
田県考古学協会とタイアップして開催します。会員
の皆様もご参加いただけますので、ご案内いたしま
す。事前申し込み不要です。

1. 日時 2018年11月10日（土）13:30～16:30
2. 会場 アキタパークホテル
3. 内容

講演 沢田 敦「氷河時代を生き抜いた狩猟民—東
北地方の旧石器時代—」

各論 石川恵美子「米ヶ森遺跡～秋田旧石器研究の
幕開けと今日的課題～」

赤星純平「旧石器時代の石斧」

神田和彦「地蔵田遺跡～ハンターたちの活動痕跡を
追う～」

問合せ先：沢田 敦 (a-sawada@mti.biglobe.ne.jp)

関連学会情報

岩宿フォーラム2018開催のご案内

平成30年11月3日（土）・4日（日）に、笠懸
公民館において、岩宿フォーラム2018を開催しま
す。今回のシンポジウムでは、岩宿時代終末から縄
文時代初頭に多数見られる大形尖頭器について研
究・討論します。

テーマ：『大形尖頭器の技術的組織—岩宿時代社会

の終焉を探る—』

主催：岩宿フォーラム実行委員会・岩宿博物館

開催日 平成30年11月3日（土）・4日（日）

会場 笠懸公民館（1交流ホール）

日程

○1日目 11月3日（土）13：30～18：00

基調講演 講師：白石浩之氏（愛知学院大学）

基調報告1 両面加工尖頭器のライフヒストリー—
趣旨説明

「両面加工尖頭器の製作と道具」小菅将夫（岩宿博
物館）

「両面加工尖頭器に残された痕跡とライフヒスト
リー」橋詰 潤氏（新潟県立歴史博物館）

資料見学（岩宿博物館 企画展示室）

○2日目 11月4日（日）9:00～15:00

基調報告2 原産地遺跡の様相

「原産地遺跡の様相」須藤隆司（明治大学黒耀石研
究センター）

基調報告3 関東各地の様相

「北関東地方の様相」阿久澤智和（前橋市教育委員
会）

「埼玉県の様相」水村雄功（埼玉県埋蔵文化財調査
事業団）・大久保聡氏（志木市立埋蔵文化財保管
センター）

「南関東地方西部の様相」麻生順司氏（玉川文化財
研究所）

「関東地方東部の様相」橋本勝雄氏（千葉県教育振
興財団）

パネルディスカッション

※講演・報告のタイトルは仮題

※参加費：無料 予稿集は有料頒布（予価700円）

※申込：住所・氏名・連絡先（所属）および参加希
望日程を別紙に記入の上、10月末日までに
事務局（岩宿博物館）にお申し込みください
（E-mail：iwajukuhaku@city.midori.gunma.jp）。

※岩宿博物館では、10月16日（土）～11月25日
（日）にかけ、第66回企画展『石槍—時代を変
えた石器のライフヒストリー—』を開催します。

第44回 九州旧石器文化研究会 （沖縄大会）開催について

平成30年12月8日（土）・9日（日）に、沖縄県
立博物館・美術館において、第44回九州旧石器文
化研究会（沖縄大会）を開催します。

沖縄大会では、「日本列島の人類起源をめぐる南
方ルート—沖縄の旧石器人と文化を考える—」を
テーマとし、近年のサキタリ洞遺跡や白保芋根田原

洞穴遺跡における調査研究を踏まえ、沖縄と台湾、九州をめぐる南方ルートの現状とその意義について、研究発表や現地見学、資料見学を通して改めて考える機会にしたいと考えております。

主 催 九州旧石器文化研究会

開催日 平成30年12月8日(土)・9日(日)

会 場 沖縄県立博物館・美術館(沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号)ほか

日 程

○1日目 12月8日(土)

受付 13:00~14:00 開会行事 14:00~14:10

研究発表 14:10~17:20

「沖縄県南城市サキタリ洞遺跡の発掘調査」

山崎真治(沖縄県立博物館・美術館)

「沖縄県石垣市白保竿根田原洞穴遺跡の発掘調査」

片桐千亜紀(沖縄県立埋蔵文化財センター)

「沖縄の旧石器人骨と南方ルート」

土肥直美(日本人類学会会員)

「薩南諸島の旧石器文化」

川口雅之(鹿児島県文化振興財団)

「台湾における旧石器文化」

藤木 聡(宮崎県教育委員会)

資料展示と解説 17:30~18:00

サキタリ洞遺跡出土品等を予定

事務連絡 18:00~18:10 情報交換会 19:30~

○2日目 12月9日(日) 9:00~16:00

現地見学・資料見学

※サキタリ洞遺跡、港川遺跡、八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館、沖縄県立埋蔵文化財センター(白保竿根田原洞穴遺跡出土品等を予定)

※オプションとして、12月8日(土)午前に白保竿根田原洞穴遺跡(石垣市)の現地見学を予定しています。参加者は株式会社ハル・トラベルのツアーにお申込みください。【締切:10月5日(金)】

※詳細は九州旧石器文化研究会HP (<http://hakatanntoropusu.com/kyuusyuukyusekkipage.html>)にてご確認ください。

お知らせ

メーリングリストの運用について

日本旧石器学会ではメーリングリストの運用を行っています。これは学会からの連絡手段として利用するとともに、情報交換の場として活用していくために設けたものです。ただ、2013年12月の運用開始から4年以上がたちましたがまだ多くの方が未

登録のままとなっています。未登録の会員諸氏におかれましてはメーリングリストにご登録いただけますようお願いいたします。メールアドレスを、事務局のメールアドレス(jimu@palaeolithic.jp)までお知らせください。速やかにご利用できるようにします。強制するものではありませんが、ご協力を願ひ申し上げます。

会費納入・住所変更手続きのお願い

日本旧石器学会は、皆様の会費によって運営されていますので、会費は原則前納制としております。本ニュースレター同封の払込取扱票を用いて、今年度分会費の納入をお願いいたします。振込先は、日本旧石器学会 郵便振替番号00180-8-408055です。全国の郵便局で簡単に手続きいただけます。ニュースレター第36号より毎号お知らせしておりますが、**今年度より年会費が6,000円になります**。御理解のほどよろしく申し上げます。

また、会費滞納は本会運営に大きな支障を招く原因になりますので、同封の会費納入状況を御確認のうえ、2017年度以前の会費を未納の方は、未納分もあわせて納入をお願いいたします。

転居をされた方は、必ず住所変更の手続きをお願いいたします。郵便局に転居届を出されていても、本会では郵便局以外の配送会社を利用していますので転送していただけません。会費納入の際に払込取扱票に新住所を記載いただくか、または事務局までメール等で御連絡ください。

日本旧石器学会入会申込み手続きについて

日本旧石器学会入会申込みにつきましては、入会申込書を日本旧石器学会ホームページからダウンロード (<http://palaeolithic.jp/join.htm>) し、必要事項を記載の上、日本旧石器学会事務局へ郵送してください。入会資格審査にあたっては論文等著作物の提出を求める場合があります。ご協力ください。

日本旧石器学会ニュースレター 第39号

2018年9月16日発行

編集: 日本旧石器学会ニュースレター委員会

橋詰 潤・馬籠亮道・山崎真治

発行: 日本旧石器学会

事務局: 〒192-0364

東京都八王子市南大沢1-1

首都大学東京 都市教養学部

人文・社会系 歴史・考古学分野

E-mail jimu@palaeolithic.jp

HP <http://palaeolithic.jp/index.htm>